

ランチョンセミナー

昼食無料

企業・団体によるランチョンセミナーが開催されます。
ランチョンセミナー参加者には先着順で昼食を無料でお配りいたします。

開催日	時間	会場	定員	主催企業・団体
9/17 (水)	12:15-13:00	C5	200	応用物理学会(APEX/JJAP)
		S2	200	AIP Publishing
		A4	100	エリオニクス
9/18 (木)		S2	200	光ビームプラットフォーム (事務局:高エネルギー加速器研究機構)
		A4	100	名古屋大学エコトピア科学研究所
9/19 (金)		S2	200	東陽テクニカ
	A12	100	IOP 英国物理学会出版局/ 物質・材料研究機構(NIMS)	

各セミナーの詳細につきましては、**次ページ以降(p.33~p.39)のご案内** をご覧ください。

参加方法

ランチョンセミナー参加ご希望の方はRegistration内の「ランチョンセミナー参加受付」で参加票をご提示ください。その場で「整理券」をお渡します。
その整理券に**お名前、ご所属、メールアドレス**を記載の上、昼12時10分までにランチョンセミナー会場へお越しください。

整理券の配布

参加票をご提示いただき、整理券を配布いたします。

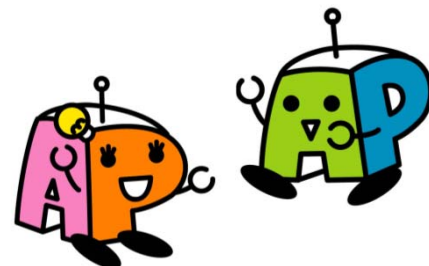
- ◆ 配布場所: Registration内 「ランチョンセミナー参加受付」
 - ◆ 配布時間: 各日 8:00~11:00
- ※先着順。整理券が無くなり次第、受付を終了いたします。**

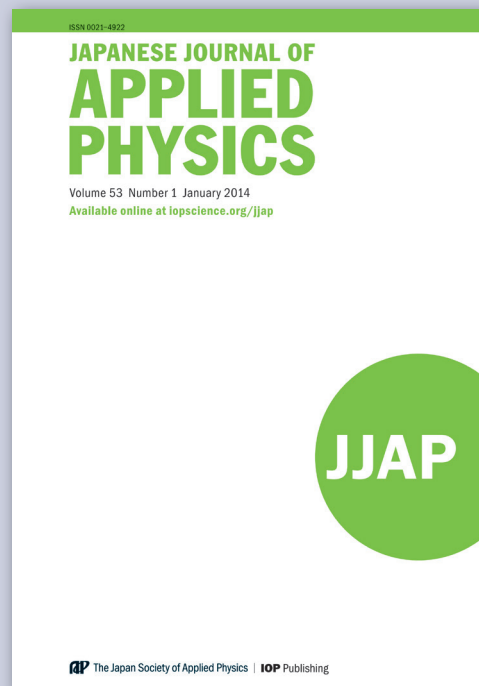
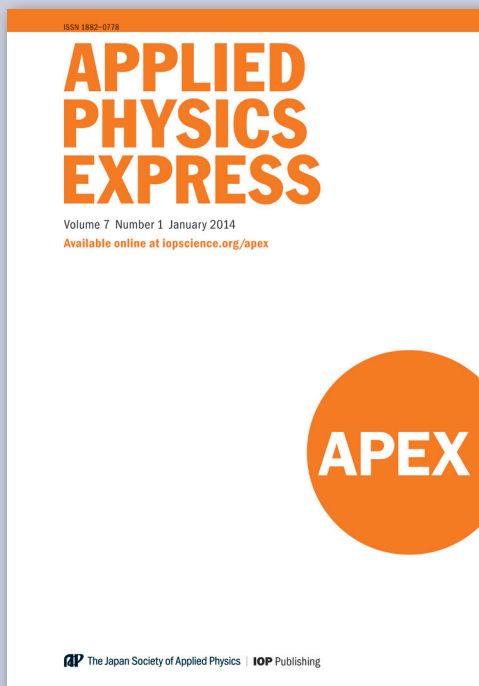
注意事項

「整理券」をお持ちの方は、お昼の12時10分までに各セミナー会場で昼食と引き換えてください。
12時10分を過ぎると「整理券」は無効になり、「整理券」をお持ちでないセミナー参加者へ昼食をお配りいたします。

整理券をお持ちでない方

12時10分までに各セミナー会場に直接お越しください。
昼食の残りがあつた場合に限り、先着順で昼食をお配りいたします。
昼食が無かつた場合でも、ご入場いただきセミナーに参加していただけます。





APEX/JJAP Luncheon Seminar

日時: 9月17日 12:15 – 13:00

会場: C5 (北海道大学 工学部2階 オープンホール)

“APEX and JJAP: Bringing your research to an international audience”

by Prof. Takashi Kondo

APEX/JJAP編集運営委員会委員長

by Dr. Matthew Salter

IOP Publishing, Publishing Manager Asia-Pacific

“Publishing your work in a high-impact journal”

by Prof. Tadashi Shibata

APEX/JJAP編集長

Journals sites at iopscience.org/apex and iopscience.org/jjap



Published in partnership with
The Japan Society of Applied Physics

IOP Publishing | science first

Now
indexed in
Thomson Reuters
Databases

AIP | APL Materials



APL Materials offers:

- > Free, Permanent, Online Access to Your Article
- > Article Level Usage Metrics
- > Fast and Fair Peer Review
- > Creative Commons Licensing So You Retain Copyright
- > Worldwide Visibility and Promotion

A High Impact Open Access Journal in Functional Materials Science

Editor: Professor Judith L. MacManus-Driscoll
University of Cambridge, Cambridge, U.K.

- Nanomaterials and nanostructures
- Electronic, Magnetic & Optical Materials
- Organic materials
- Polymers
- Biomaterials
- Energy and Environment materials
- Carbon and amorphous materials
- General functional materials

Visit aplmaterials.aip.org to learn more



Learn more about *APL Materials* and AIP Publishing at the
Luncheon Seminar, Wednesday, September 17, 12:15 - 13:00

第75回応用物理学会秋季学術講演会

エリオニクス ランチオンセミナーのご案内

日時

2014年9月17日(水) 12:15~13:00

会場

A4 E201 2階

演目

EBリソグラフィー最前線
最新鋭「ELS」シリーズのご紹介

<http://www.elionix.co.jp>

株式会社 エリオニクス

[本社・工場・ショールーム] 〒192-0063 東京都八王子市元横山町3-7-6 TEL.042-626-0611 FAX.042-626-6136
[ナノテクシステムセンター] 〒192-0012 東京都八王子市左入町279 TEL.042-692-0610 FAX.042-692-0690
[西日本営業所] 〒563-0025 大阪府池田市城南1丁目9-22グリーンプラザ2F TEL.072-754-6999 FAX.072-754-6990



文部科学省 先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業

光ビームプラットフォーム

放射光施設と大型レーザー光施設の共用のご紹介
施設の特長とご利用方法

第75回応用物理学会秋季学術講演会 ランチョンセミナー
日時：9月18日(木) 12:15～13:00
会場：S2 (S棟2階)



光ビームプラットフォームの施設

- ・XAFS
- ・X線回折
- ・X線小角散乱
- ・X線蛍光分析
- ・イメージング
- ・トポグラフィ
- ・光電子分光
- ・ポンププローブ
- ・レーザー照射
- ・アブレーション
- ・テラヘルツ分析
- ・ナノマイクロ加工
- ・ガンマ線照射

光ビームプラットフォームは、放射光施設及び大型レーザー光施設がネットワーク化することにより、施設の共用を促進し、産学官の皆様の学術研究や産業利用をより一層支援しようとする取り組みです。各施設は初めての方でも気軽に相談できる窓口を設け、実験等の支援についても充実した体制を図っています。これらの大型研究施設を利用することで、企業や大学等の研究室では困難な、構造解析や材料分析、評価実験や微細加工などができる場合も数多くあります。ランチョンセミナーでは、光ビームプラットフォームの取組みと共に、各施設の特長やご利用方法などをご紹介します。総合窓口としてホームページを開設していますので是非一度ご覧下さい。

<http://photonbeam.jp/>
e-mail: consult@photonbeam.jp

光ビームプラットフォーム事務局
所在：大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構



高性能電子顕微鏡による反応科学・ナノ材料科学研究支援拠点

ランチンセミナー 9月18日 12:15~13:00 A4(高等教育推進機構2F E201)

ナノ材料・ナノデバイス開発、生体試料観察支援

- ▶ ①電顕観察の技術相談、②試料作製、③観察、④コンサルティングが一体となったサポート体制で、観察用途に適した電顕を選択して観察・分析を支援
- ▶ 専任の電顕操作技術者が観察代行
- ▶ 学内の各専門分野の研究陣が解析をサポート
- ▶ 万全の守秘体制で、観察支援を実施

新材料および生体などの観察・分析、技術課題の解決手段としてご利用ください。

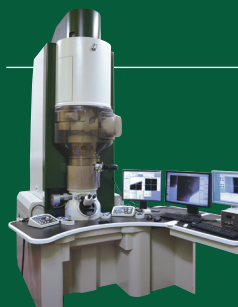
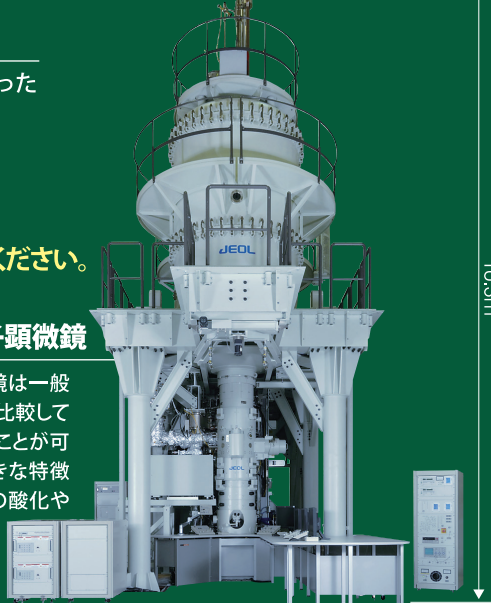


収差補正電子顕微鏡(冷電界放出電子銃)

照射系球面収差補正装置を搭載した、世界最高のSTEM-HAADF像分解能78pmを有する原子分解能分析電子顕微鏡で、EDSもしくはEELSと兼用すると原子レベルでの元素分析が可能です。

反応科学超高压電子顕微鏡

反応科学超高压電子顕微鏡は一般的な200kVの電子顕微鏡と比較して非常に厚い試料を透過することが可能です。特にこの装置の大きな特徴として各種ガスによる金属の酸化や触媒反応など化学反応をその場観察できます。

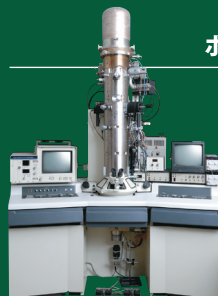


収差補正電子顕微鏡(電界放出電子銃)

照射系と対物系に球面収差補正装置を搭載した、世界最高のTEM/STEM像分解能を有する原子分解能分析電子顕微鏡で、EDSもしくはEELSと兼用すると原子レベルでの元素分析が可能です。

ホログラフィー電子顕微鏡(冷電界放出電子銃)

電子波の干渉性を利用し電子線パイプリズムで偏向させた電子線ホログラムを作ります。この手法により、微小領域の電場や磁場の変化を観察することができます。



電子分光電子顕微鏡

加速電圧200kVの電子顕微鏡で、EELS以外に波長分散X線分光器(WDX)が付属しています。カソードルミネッセンス(CL)光も計測可能な200kV電子顕微鏡。



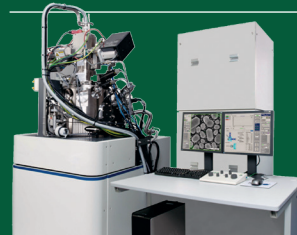
高分解能分析電子顕微鏡

直接倍率としては、TEM機能で100万倍、STEM機能で200万倍での高分解能観察が可能です。また、EDSによる元素分析機器装置も付属しています。



走査電子顕微鏡

真空以外に雰囲気制御しながらSEM観察が可能な走査型電子顕微鏡。EDSによる元素分析や試料マニピュレーション機能があります。



試料作製装置(FIB-SEM)

- 試料断面観察
- Arイオンビーム鏡筒
- EDS/EBSD
- マイクロプロービングシステム
- SEM・STEM観察

※その他、FIBなど、電子顕微鏡試料作製のための各種装置を設置しています。

第 75 回応用物理学会秋季学術講演会

東陽テクニカ ランチョンセミナー

テラヘルツ分光

日時： 9月19日（金） 12:15 ~ 13:00

会場： S2（S棟 2階）

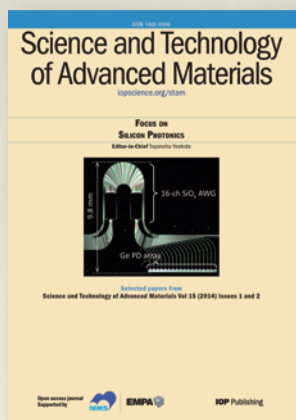
レイクショア 8500 型 THz分光システム ～測定例の紹介～



株式会社東陽テクニカ 営業第1部 アプリケーション担当 山口政紀

STAM 誌を知っていますか？

www.e-materials.net/stam/



Science and Technology of Advanced Materials

OPEN ACCESS JOURNAL

Luncheon Seminar

日時 9月19日(金) 12:15~13:00

会場 A12 (高等教育推進機構 3階 E301)

講演 1



数字から見る STAM の魅力

神原 淳 (STAM 編集委員 / 東京大学)

講演 2



2014 年、特集企画

羽多野 毅 (STAM 編集コーディネーター / 物質・材料研究機構)

講演 3



STAM への誘い

吉田 豊信 (STAM 編集委員長 / 物質・材料研究機構)

司会：谷藤 幹子 (物質・材料研究機構)

主催

IOP Publishing



独立行政法人 物質・材料研究機構
National Institute for Materials Science

